

生活科 第1学年 「からだをきれいに」

授業者 太田市立南小学校 堀越 慶太

大植 亜記子

川岸 扶美代

1, 本時のねらい

手以外の体のよごれに気づき、体をきれいにする方法について考えることができる。

2, 視聴覚機器の位置づけ

授業の導入において前時の実験の様子を編集したビデオ映像、本時のねらいにかかわる課題を扱う展開ではデジタルカメラで撮りためた映像がスクリーンに投影されていた。

まず、ビデオ映像（前時の手洗い実験等の様子）を整理・編集した導入は、短時間のうちに前時の学習内容を確認、想起させるのに効果的だった。デジタルカメラに収めておいた各自の手の写真を印刷しておき、ビデオ映像と対比させて扱えたことは、導入の効果を高め、主体的に本時の課題へとスムーズに結びつけていく役割も果たした。

次に体全体の汚れについて考えさせる場面では、授業者がこれまで撮りためてきたクラス児童のデジタルカメラ映像（体育、あそび、生活の場、諸行事等での様々な部位の体の汚れ等）が大きくスクリーンに投影された。各映像は児童自身の具体的な活動のよって裏付けられ、1年生という発達段階のあってもねらいに迫る的確な指摘ができていた。

今回の授業は視聴覚機器の特性をふまえた活用効果をどのように高めるか、映像内容の選択と児童の発達段階という両面から示唆をあたえてくれる興味深い実践である。

3, 授業の概要

(1) 前時の手洗いの実験の映像を映し出し、想起させながら、手をきれいにしておくことの大切さを確認する。

手洗いの実験の様子をスクリーンに映し出す。

自分の手の汚れ（デジタルカメラで撮影した映像を印刷しておいたもの）に着目させ、気づいたことを発表させる。

(2) 生活場面のて以外の汚れについて映像を順次映し出しながら、体全体の汚れに目を向ける。

教師の撮りためておいた学校生活場面でのデジタルカメラ映像をもとに、手以外の汚れについて児童と確認していく。

映像で確認しながら黒板の全身図（男の子 = 外でよく遊ぶ子・女の子 = 部屋の中で遊ぶのが好きな子）に、汚れマークを貼って

いく。

汚れマーク

(担任) 外からの汚れ = 茶色

(養護教諭) 内からの汚れ

汗 = 黄色

おしっこ・うんこ = オレンジ色

内からの汚れについては、具体的に考えられるように、汚れのついたシャツやパンツを見せて確認させる。

自分の汚れへとフィードバックさせて考えさせ、ワークシート（男の子・女の子の全身）に外からの汚れ、汗による汚れ、うんちやおしっこの汚れに分けて、色ぬりをする。

(3) 体の汚れはどうしたらよいか、きれいになるかを分類して考える。

からだのよごれは どうやって
きれいにしたら よいのかな

体の外からの汚れ（ほこり・どろ）

洗う、タオルで拭く、入浴

汗の汚れ

拭く、洗う、入浴

うんち・おしっこの汚れ

トイレでよく拭く

衣類・下着の汚れ

着替え、洗濯

汚れごとに分けて考えさせ、次時への方向づけをする。（トイレでの指導、お風呂の入り方、洗濯や着替え）

